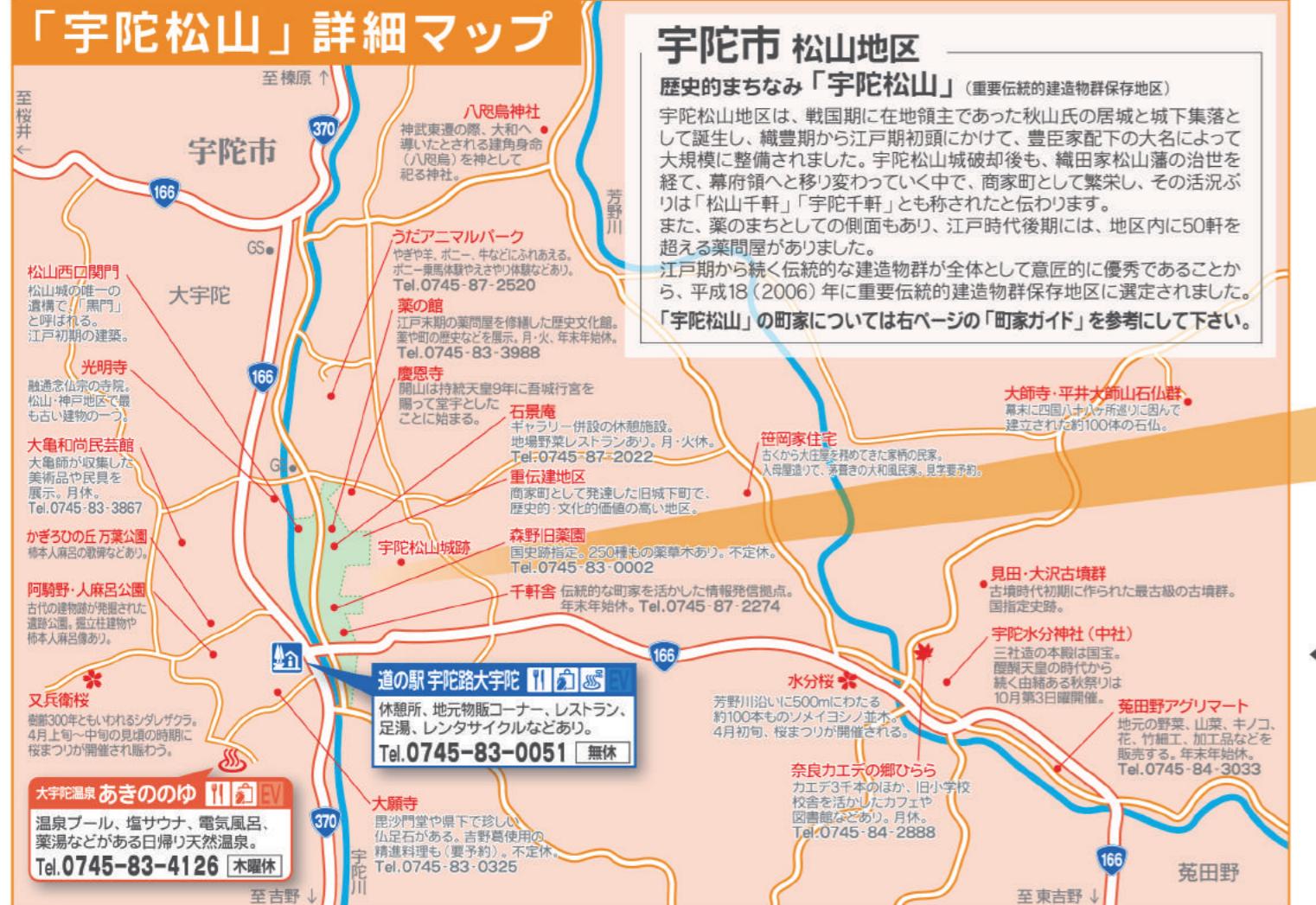


「宇陀松山」詳細マップ



宇陀市 松山地区

歴史的まちなみ「宇陀松山」(重要伝統的建造物群保存地区)

宇陀松山地区は、戦国期に在地領主であった秋山氏の居城と城下集落として誕生し、織豊期から江戸期初頭にかけて、豊臣家配下の大名によって大規模に整備されました。宇陀松山城破却後も、織田家松山藩の治世を経て、幕府領へと移り変わっていく中で、商家町として繁栄し、その活況ぶりは「松山千軒」「宇陀千軒」とも称されたと伝わります。

また、薬のようじての前面やめり、江戸時代後期には、地区内に50軒を超える薬問屋がありました。

「宝塚松川」の町塞については右ページの「町塞ガイド」を参考にして下さい。

「宇陀松山」の町家については右ページの「町家別冊」を参考にして下さい。

宇陀市

- ①植田家住宅** 江戸時代末期の建築とされる中規模で典型的な町家。かつての表構えは全ての間口がスリアゲ戸であった。

②旧福田医院 大正14年頃、建立された洋館。診療室は大壁づくりで、天井は折り上げ天井。敷地には、蔵や離れなどもある。

③森田家住宅 江戸時代後期の建築と考えられる。片側入母屋・つしま二階・桟瓦葺・平入の伝統的町家。

④竹田家住宅 江戸時代末期の建築と伝わる。白漆喰が厚く塗り込まれた二階には、意匠の異なる虫籠窓が3種類ある。

⑤川尾家住宅 外觀構造などから江戸時代末期のものと考えられる。この地区においては他に無い菱形の虫籠窓を持つ。

⑥好岡家住宅 明治20年建立の大型の町家。玄関左には、大和地方の古い町家の特徴である台格子がある。

**⑦「薬の館」
(旧黒川家住宅)** 江戸時代末期の建築とされる。唐破風付きの「天寿丸」の看板は松山地区のシンボル。「薬の館」として公開。

⑧山邊家住宅 江戸時代中期の建築で、地区の中でも最も古い町家。格子、スリアゲ戸の痕跡、5つの虫籠窓などがある。

⑨都司家住宅 明治元年頃の建築と伝わる。表に座敷玄関があり、慶恩寺の普山式の時にはここから僧侶が出入りした。

⑩黒川本家 江戸時代後期の建物と推測。南の1/3を貸家とした子持ち長屋であったとされる。谷崎潤一郎も愛した店。

⑪林家住宅 文政11年(江戸後期)の棟札が残る大型の町家。当初2列6室の町家に、3列目と新座敷を増築したらしい。

⑫森岡家住宅 主屋は大正時代末期に建築と伝わる。大字陀では珍しい妻入り、表側は入母屋の屋根形式の町家。

⑬久保酒造 主屋は明治42年に建て替えたもの。創業元禄15(1702)年の造り酒屋。白漆喰の外觀が美しい。

⑭芳村酒造 昭和16年建立と新しいが、格子・卯建・黒漆喰・前裁など伝統的要素を持った町家。造り酒屋の店舗兼住宅。

